

## 「高度経済成長期教育史」研究部会（第15回）

日時：2023年8月3日（木）13:00～15:30

場所：野間教育研究所

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員  
山口和人所長・金沢千秋・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）須田研究員「1960年代におけるエネルギー政策と教育—原子力PR事業に着目して—」

◆紀要タイトル案「高度経済成長期のエネルギー政策・地域開発と教育—「原子力平和利用」に焦点を当てて—」（仮）、章・節の構想案を説明

◆3章にあたる「1960年代におけるエネルギー政策・地域開発と教育」から

・原子力委員会「原子力開発長期利用計画」の策定

1961年2月8日、1967年4月13日、1972年6月1日 3度出されている

・原子力PR事業の展開と教育現場への影響

原子力セミナー・原子力実験セミナー開催 →どちらも高等学校・高等専門学校の教員対象

「原子力の日」：10月26日を「原子力の日」とすることが1964年7月31日閣議決定

一般講演会、原子力セミナー、テレビ・ラジオ放送、映画会、展示会等を開催

1968年から「原子力平和利用についての高校生作文募集」：入選者は原子力施設を見学

推進母体のなかには現在にいたるまで「教育」と接点をもつ団体として活動しているものもある

→今後検討予定

（2）西山研究員「『政治』から見る大学紛争—『佐藤栄作日記』『楠田實日記』から—」

・『佐藤栄作日記』全6巻 朝日新聞社刊、1997-1999 伊藤隆監修

1952年1月1日～1975年5月18日の日記（1955年・1957-60年は行方不明）

・『楠田實日記』全1巻 中央公論新社刊、2001年 和田純・五百旗頭真編

1967年5月15日～1972年7月7日までの日記

（楠田實：1952年産経新聞社入社 1967年3月内閣総理大臣秘書官就任）

「政権期の『佐藤日記』が淡々とした叙述に終始することに比べ、『楠田日記』はそれを補って余りある豊富な内容に満ちている」（『日記で読む近現代日本政治史』ミネルヴァ書房2017年 より）

・それぞれの日記の記述を比較

東大紛争以前（羽田事件 その他の学生運動）

東大入試中止前後（坂田文相就任 東大入試への対応）

→佐藤は東大の入試が争点となるまでは個別の大学紛争に関心がなかったか（日記に記述なし）

入試の実施の問題が大きな焦点になって、東大紛争の動向に神経をとがらせるようになる

・次回研究会 9月15日（金）13:00～

・次々回研究会 10月13日（金）13:00～